イスラエル報復 核・石油は狙わず

イラン攻撃 米に事前通知

イランへの報復攻撃に踏み切ったイスラエル軍は26日、軍事目標への「精密攻撃」を終了し、同軍の航空機が無事に帰還したとする声明を発表した。ハガリ報道官は「報復は完了し、目的は達成された」と述べた。

▼1面参照

イランが1日に約200発の弾道ミサイルをイスラエル領内に撃ち込んだのは、支援するパレスチナ自治区ガザのイスラム組織ハマス最高幹部のハニヤ政治局長やレバノンのイスラム教シーア派組織ヒズボラ最高指導者のナスララ師が殺害されたことへの報復だった。

イスラエル側の報復攻撃の対象と時期が焦点になった。イラン経済に壊滅的な打撃を与えられる石油施設やイラン各地にある核関連施設も取りざたされた。だが、イスラエル側は現段階で、レバノンへの攻撃を強化し、ヒズボラ壊滅を優先させたいのが本音だ。ハガリ報道官は「我々の戦闘の焦点は、ガザとレバノンだ」と述べた。米ネットメディアのアクシオスは当局者の話として、イスラエルはイランに、「複数の第三者」を通じて、今回の攻撃の標的を事前に大まかに伝えていた、と報じた。

また、石油施設や核関連施設への攻撃は、米国のバイデン政権が容認しない姿勢を示してきた。石油施設への攻撃は、世界の原油価格にも大きな影響を与える。さらに核関連施設への攻撃となれば、イスラエルの攻撃に対する抑止として、イランが核兵器保有を宣言する可能性が高まる。

22日には米国のブリンケン国務長官がイスラエルを訪問し、ネタニヤフ首相らと会談した。イランへの報復攻撃についても議論したとされる。攻撃の時期については、イランの攻撃直後から繰り返し「数日以内にも」とイスラエルメディアに報じられてきた。1カ月近くかかったのは、米国との調整に時間を要したためとみられる。

米国のバイデン政権は抑制的な攻撃と見なし、安堵感をにじませた。米政権高官は「過去数週間、大統領は、イスラエルに民間人の被害のリスクを抑え、標的を絞るよう促してきた。その通りの対応がとられたようだ」と評価した。米国防当局者によると、攻撃は事前に知らされていた。

イランの攻撃後、米国はイスラエルに高高度迎撃ミサイルシステム（THAAD）を配備し、防空強化を図った。米高官は「攻撃の応酬はやめるべきだ」と語り、イラン側にも複数のルートで自制を求めていたという。

紛争拡大を防ぎたいバイデン政権は、イスラエルの報復を容認するものの、受けた攻撃に釣りあうものにとどめるよう求め、攻撃すれば影響が大きい核や石油の関連施設を標的から外すよう警告。イスラエルもそれに従った形となった。

中東情勢の混乱は、大接戦の大統領選が迫る米国の内政的にも共和党のトランプ前大統領陣営から現職のハリス副大統領への批判材料になる。政権は、今回の報復で区切りをつけ、レバノンやガザでの紛争の外交解決に注力したい考えだが、具体的な展望は見えない。

（エルサレム＝高久潤、ワシントン＝下司佳代子）

26日、爆発音が数回聞こえた後のイランの首都テヘランの風景。ウエスト・アジア・ニュース・エージェンシー提供＝ロイター

イラン、想定の範囲内か

「テヘランでは普段通りの生活が営まれている」。国営プレスTVはこの日、平穏な市街地の映像と共にこうした字幕を繰り返し流し、攻撃の影響が小さかったことを強調した。

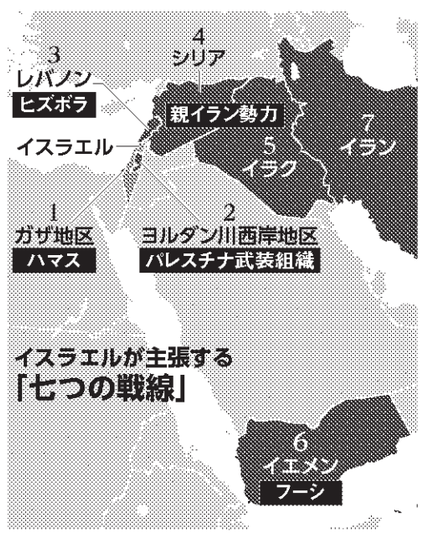
政府系メヘル通信が伝えた軍の発表によると、首都テヘラン周辺のほか南西部のイラム、フゼスタン両州で複数の軍事施設が攻撃を受け、限定的な被害が出たものの、迎撃に成功したとした。

イランとイスラエルの関係は、4月に初めて互いの領土をミサイルなどで直接攻撃し合って以降、エスカレーションが止まらない状況が続く。

今回、攻撃を受けたのは軍事施設にとどまり、核関連施設がある中部ナタンズからも離れている。イランにとって今回の攻撃は想定の範囲内だったとみられる。

この日の攻撃後、アレフ第1副大統領は「イランの力で祖国の敵（イスラエル）を屈辱にまみれさせる」とX（旧ツイッター）に投稿し、イスラエルへの敵対姿勢が変わらないことを強調した。

首都周辺への攻撃を許した事実は、政府の中枢や要人がいつでも狙われうるというメッセージとなり、イランの体制や市民に衝撃を与えた。ただ、イラン側としては、事実上の核保有国であるイスラエルとの間で、これ以上の応酬の激化は避けたいのが本音とみられる。



イスラエル「七つの戦線」

今後、緊張が緩和に向かうかどうかは、イスラエルが主張する「七つの戦線」の行方次第だ。七つとは、イランとその支援を受ける武装組織のネットワーク「抵抗の枢軸」を指す。イスラエル軍はレバノンのヒズボラを掃討する作戦を本格化させ、ヒズボラ側もイスラエル領にロケットを連致する。日が暮れ、居酒屋に移動しても話は終わらない。ほろ酔い加減の土田さんはいつも繰り返す。「言うことはわかる。でも高齢の遺族は時間がない。犯人逮捕がなければ、本人も遺族も浮かばれないよ」

土田さんは世論に訴えるアイデアを次々と実現させる。昨秋には事件とDNAを題材にした朗読劇を劇作家の高橋いさをさんに依頼し、3人で話しこんだこともあった。

8月、DNA型などのデータ抹消を巡る裁判の判決で、名古屋高裁は「DNA型データの運用などには立法が必要」と指摘した。判決について話すうち、土田さんはもう次の構想を語り始めた。「骨髄バンクのように希望者がDNAを登録する制度が作れないか。夢の夢だけれどね」

法制化は近いようでなお遠い。それでも土田さんは、種をまき、耕し続ける。いつの日か、大きな議論が起きることを願いながら。

カラー充実 紙面ビューアー 登録無料

▼首相動静 26日

午前9時40分、東京・赤坂の衆院議員宿舎発。同9時56分、東京・市谷本村町の防衛省着。自衛隊殉職隊員追悼式に参列し、追悼の辞、献花。同10時52分、同所発。同53分、東京・市谷本村町のホテルグランドヒル市ケ谷着。着替え。同11時32分、同ホテル発。同11時48分、JR新宿駅着。正午、あずさ21号で同駅発。午後0時22分、JR立川駅着。同27分、同駅発。同1時1分、東京都小平市の西武新宿線小平駅南口着。街頭演説。同48分、同所発。同2時27分、調布市の京王線調布駅北口着。街頭演説。同3時1分、同所発。同3時56分、東京・中野の中野区役所前着。街頭演説。同4時27分、同所発。同5時3分、東京・春日の文京区立礫川公園前着。街頭演説。同29分、同所発。同5時43分、東京・四谷の若葉東公園着。街頭演説。同6時16分、同所発。同6時35分、JR恵比寿駅西口着。街頭演説。同7時1分、同所発。同7時24分、東京・豊洲のホームセンター「スーパービバホーム豊洲店」前着。街頭演説。同8時10分、同所発。同8時23分、同議員宿舎着。

日曜に想う

編集委員 宮地ゆう

2024・10・27

種をまき続ける 警察官の覚悟

土田猛さん(76)の朝は早い。午前8時には千葉県柏市の自宅近くにある畑を回る。土地と家は、殉職しても家族が路頭に迷わないようにと、24歳の時に早々に手に入れた。畑ではいま、落花生やサツマイモが収穫時期だ。野菜を段ボールに詰め、現役時代に世話になった人たちに送る。その数は120箱になる。

「毎年同じ野菜を送るんだ。くるとわかれば買わなくていいからね」

警視庁に入庁したのは1966年。所轄署や外事担当、捜査1課などを歩み、多くの事件を担当した。やがて、定年が見えてきた2000年の年の瀬、大きな事件が起きた。

東京都世田谷区で会社員宮澤みきおさん（当時44）一家4人が殺された「世田谷一家殺人事件」だ。

警視庁鑑識課の検視官として、その後は管轄の成城署副署長、署長として携わった。だが未解決のまま、07年に退職を迎えた。土田さんは、そこで終わりにできなかった。

「もう捜査はできない。でも、時効の壁がなくなれば、後輩たちが捜査し続けられる」

09年、16の殺人事件の遺族と、「宙の会」を設立した。10年には時効撤廃を実現させ、いまも被害者遺族の権利確立などを求め、時に一緒に街頭に立って活動を続けている。

私が土田さんと初めて会ったのも、1996年に放火殺人事件で上智大生だった次女・順子さん（当時21）を失った小林賢二さん(78)を通じてだった。「私たちが一番信頼する人に会ってほしい」。そう紹介されたのが、土田さんだった。

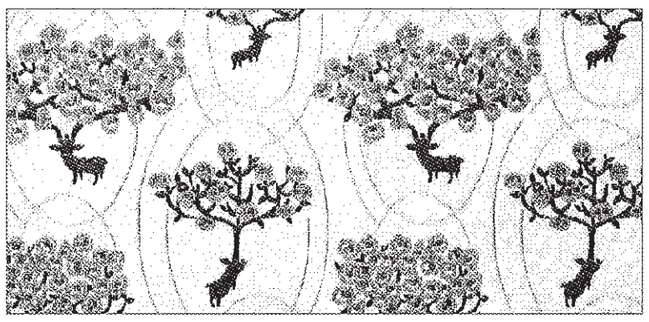
未解決事件は時間が経つほど手がかりは減ってゆく。そんななかで重要な力を持つのがDNAだ。

警察庁のDNA型データベースには約175万件の容疑者のデータがある。だが、日本には採取から登録、抹消などについて定めた法律がなく、無罪になっても、たいていデータは抹消されない。DNA型は指紋などと違い、親や兄弟、次の世代の情報も含んでいる。秘匿性の高さから、他の先進国では法律で扱いを定め、監督制度を持つ国もある。

この数年、捜査でのDNA型の扱いを巡って、ことあるごとに土田さんと議論してきた。

「捜査に利用するDNAの範囲を広げ、いまは見ていない遺伝情報も活用して犯人の身体的な特徴や人種なども特定すべきだ」と土田さん。

「法で運用を定め、透明性を持たせるのが先で、拡大は慎重にするべき」と私。意見はいつもぶつかるが、法制化すべきだという点では一



bloom©minä perhonen（ミナ ペルホネンの生地から）